

ゆうあい



題字 初代総裁三笠宮崇仁親王殿下

共に生きる

2024. 1. 1 No.58

社会福祉法人 友愛十字会



しゅんげん なが
「峻 巖に流れる」

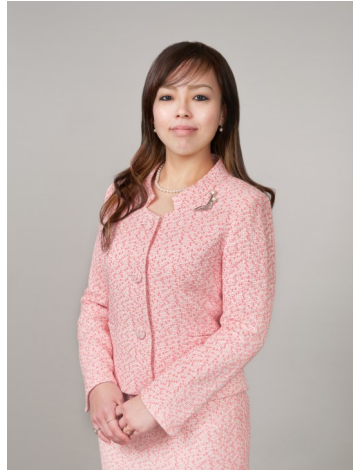
主な記事

- 2024年を迎えて 総裁 瑠子女王殿下
- 就任挨拶 友愛ホーム 園長 佐藤 秀崇
- 永年勤続者表彰式 友愛園 副主任 田中 正行
- 港区立障害保健福祉センター 運営管理部 部長 田島 智子
- 内閣総理大臣表彰 法人本部事務局企画部介護生産性向上推進室 室長 鈴木 健太
- 事例研究発表研修 友愛荘/砦ホーム/砦デイサービスセンター
- 三人行事について 地域連携委員会 副委員長 小泉 貴宏
- 宮様チャリティーボウリング 友愛園 園長 小関 英利
- 板橋区障がい者スポーツ大会 東京聴覚障害者支援センター 高井 純
- 施設開放 友愛荘 主任 山口 公司
- 中長期計画 法人本部事務局企画部 部長 宮崎 浩
- 分身ロボットの活用 砦ホーム 副主任 小谷野 祐樹
- 子育てと仕事の両立について 男女共同参画委員会

2024年を迎えて

社会福祉法人 友愛十字会

総裁 瑤子女王殿下



友愛十字会の総裁をしております寛仁親王の次女の瑤子でございます。

みなさま、新年明けましておめでとうございます。昨年は、みなさま、どんな一年を過ごされましたか？ covid-19 が5類に引き下げられ、5年前まで当たり前であった体調が悪いからマスクをするという生活であったり、花粉症が辛いからマスクをするといったような生活

など、それぞれの物差しで行動をしても良い状況にはなりませんが、自分の思い描いていた時間を、しっかりと有意義に過ごすことは出来たでしょうか？ まだマスクを外して良いという感覚が戻らない方、マスク生活に慣れてしまった方、マスクを外して今までのようにアクティブに動けるようになってきた反面、風邪を引きやすくなってしまったり・花粉症が酷くなったり、前まで花粉症ではなかったけれど花粉症になった方など、様々な弊害のある方もいらっしゃるのではないのでしょうか？ 少しずつでも、人と会話をすることや、外に出かけること、自分にとってリフレッシュになる時間を過ごしている方が多くいらっしゃると思います。

友愛十字会としては、昨年の11月中旬に第45回目となる合同運動会を午前中だけという制約

のある時間の中ではありましたが、開催が出来たことは大きな一歩になったと思っております。勿論、4年前に比べて参加者が少なかったり、実行委員として関わって下さっている団体の方々の中で、合同運動会というものを自体を全く経験していない方が沢山いらして、実行委員長だった私は、会議の時から不安でしかありませんでした。合同運動会に対しての思い入れの違いは当然のこと、年々関わって下さっている方との年齢層も広がっていますし、学生時代を体育会系で過ごしてきた私との根本的な考え方や行動の違いなどもあり、全員が同じ方向を向いて纏まり・前に進むというところが、今まで以上に決して簡単なものではないのだと痛感しました。実際に、会議を数回行い・本番をやってみての感想としましても、良かったところもありましたが、課題や反省点は

数多くありました。ですが、一番大事で大切なことは、実際に合同運動会に参加をして下さった方々が、どう思われたか？です。毎年あった合同運動会が戻ってきたな！と思われたのでしょうか？ちよつと面倒くさいなあと思ってしまうものだったでしょうか？今、この文章を書いている頃は、その情報は私には入ってきていない状態なので、少しでも合同運動会を開催して貰って良かったという感想があると良いなと思っております。

2024年、また新たな一年が始まるわけですが、みなさまそれぞれに、やりたいことややってみたいことや、現状維持でも良いので、何か一つ目標を持って、過ごして頂ければと思います。みなさまにとって、実りある一年になりますように。

就任のご挨拶

友愛ホーム 園長

佐藤 秀 崇



令和5年7月1日付けで友愛ホームの園長（法人本部総務部長併任）に就任いたしました佐藤と申します。

新年明けましておめでとうございます。

穏やかな正月を迎えることができ、今年はさらに明るいニュースがあることを願っておりますが、本年もよろしくお願い申し上げます。

また、日頃より当施設の運営に關しまして、御利用者や御家族をはじめ、地域や行政のみなさま、その他多くの方々に温かい御支援、御理解、御協力をいただいております、この場をおかりして心より感謝を申し上げます。

さて、友愛ホームの關係で申し上げますと、社会的孤立の問題等が顕在化し、様々な生活課題を抱える低所得の高齢者が一層増加することが

見込まれる状況の中、居宅での生活が困難な低所得の高齢者の受け皿として、養護老人ホームが果たすべき役割は益々重要なものになると国においても認識されておりますので、このような社会的役割を当施設が今後とも果たし続けられるよう、取り組んでまいります。

そして、法人本部の關係では、高齢・障害分野で多様な専門職を抱えている等の当法人の強みをいかし、直面する各種課題を計画的に解決し、持続可能で安定的な法人運営の確保が図られるよう、加えて更なる発展のために微力ながら精一杯努力して参ります。

いずれにしても、法人理念の実践に常に留意し、何より利用されるみなさまが安心して希望される毎日の暮らしが実感し続けられますよう、役割を見据えながら、全ての方に感謝する気持ちを忘れずに職員一同日々取り組んで参りますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

永年勤続者表彰式

令和5年9月28日に永年勤続者表彰式が世田谷施設で開催されました。

友愛園

副主任 田中 正行



この度は永年勤続表彰ありがとうございます。

初めて福祉の世界に飛び込んだ友愛デイサービスセンターに始まり、砵デイ、港区立障害保健福祉センター工房アミ、入浴事業と障害・高齢分野と様々な部署を経験し、現在は友愛園で従事しています。

今まで特に印象深いのは、外部委託であった入浴事業を直営で運営したことです。当初は利用者からの信頼も0（ゼロ）。必死に運営し2年経った時、利用者から「貴方たちが来てくれて本当に良かった」と握手。涙が止まりませんでした。

今まで辛い事もありましたが、30年もの間、続けてこられたのは利用者、家族、先輩、同僚の支えであり『感謝』の一言です。友愛デイの理念YOU&Iを忘れず、これからも皆様に喜んでいただけるよう精進して参ります。

港区立障害保健福祉センター
運営管理部部長 田島 智子



この度は20年の永年勤続表彰をいただき誠にありがとうございます。

平成15年8月に法人本部の非常勤事務員として入職、その後常勤職員になりました。

当時3歳・5歳・10歳のワンパク男児3人を育てながらの就業は、それはそれはてんやわんや（？）な毎日でした。突然の休みなど対応いただきとても感謝しています。

その後、平成27年6月に町田市特別養護老人ホーム友愛荘に庶務主任として異動、令和4年4月に港区立障害保健福祉センター運営管理部部長として異動になりました。

20年間を振り返ると、沢山の方との出逢いがありました。世田谷での盆踊り行事などその他施設の職員との交流も良い思い出となっています。

定年まで数年となりましたが、最後まで勤務を全うする所存です。今後ともよろしく願いいたします。

砧ホームにおける

「令和5年度介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣表彰」の受彰について

法人本部事務局企画部

介護生産性向上推進室 室長

鈴木 健太

表題の通り、砧ホームが「令和5年度介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣表彰」の荣誉に預かり、取り組みを推進してきた前施設長として砧ホームを代表し、令和5年8月24日に首相官邸にて岸田文雄内閣総理大臣より表彰状を受けて参りました。厚生労働省が令和4年12月に示した「介護職員の働く環境改善に向けた政策パッケージ」において、事業者の意識改革を図るための方策として「優良事業者・職員の表彰等を通じた好事例の普及促進」が掲げられ、「介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣表彰」が創設されました。その第一回目の表彰式において、正に一枚目の表彰状を戴く荣誉に預かることができましたのです。（写真）



表彰において評価されたポイントは図の通りですが、これらは、在任中に、信念をもって努めてきた取り組みでしたので、表彰を受けたことを大変励みに感じております（図参照）

岸田総理からは取り組みの横展開を仰せつかりましたので、まずは姉妹施設である友愛荘において「介護業務における生産性向上」の理念から学びをスタートさせたところですが、この度の表彰を機に、我が国の高齢者福祉の発展と働きやすい職場環境づくりに一層尽力して参りたいと思います。

きめた 砧ホーム

基本情報

社会福祉法人 友愛十字会
介護老人福祉施設
東京都世田谷区
利用者数: 52名 従業員数: 32名
※利用者数及び従業員数は令和5年2月1日時点

選考委員の総評

介護現場における生産性向上について、ガイドラインを有効活用することで、自施設の考えをうまく職員に浸透させており、他の模範となる取組といえる。

取組概要

- 介護ロボットやICTの導入に先駆的に取り組み、見守りセンサーやインカム等のテクノロジーを効果的に活用することにより、過去6年間（平成29年4月～令和5年3月）に入職した常勤介護職員（10人）の離職者ゼロや介護事故の発件数6割削減（平成30年度と31年度の比較）といった効果を生み出している。
- 平成30年度に厚生労働省が作成した「生産性向上に資するガイドライン」を施設運営のバイブルとし、当該ガイドラインの要素を自施設の事業計画に盛り込むなどにより、生産性向上に対する職員の理解を促しながら介護現場改革を推進するとともに、多職種協働原理（※）によるケアの質の向上に取り組んでいる。

※介護職の質がケアの質に直結するという考えのもと、介護職をメイン職種と位置づけ、他職種が介護職をサポートすることで、その力を最大限引き出すという考え方

生産性向上に資するガイドラインが示す
業務改善の取組（7つの項目）

1. 業務改善の取組

2. 業務改善の取組

3. 業務改善の取組

4. 業務改善の取組

5. 業務改善の取組

6. 業務改善の取組

7. 業務改善の取組

インカムと移動支援機器を活用した介護

砧ホーム 園長 武井 安浩

今年度の砧ホームは体制が変わり、体調不良などの理由で受彰後に2名の退職者が発生するなど、人材確保において厳しい状況となっています。ここ数年の離職者0（ゼロ）という数字が出来過ぎだったのかもしれませんが。この先、欠員による人材不足で悪循環とならないよう、働きやすい職場環境を維持していきたいと考えております。

それには、やはり風土として定着している“多職種協働原理”を軸とした明確なビジョン、先進技術や理論の応用を継続することは不可欠だと感じています。

改めて基本を大事にした上で、職員の個性を尊重し、それぞれの長所を活かしながらご利用者の生活を支え、「入所したい砧ホーム」、「入職したい砧ホーム」を目指していきたいと思っております。

- 4 -

事例研究発表研修

9月28日、世田谷施設において、令和5年度事例研究発表が行われました。

理事長賞

『ビジネス用SNSの導入による職員間コミュニケーションの改善した一事例』

友愛荘 主任 山口公司

この度友愛荘では「ビジネス用SNSの導入による職員間コミュニケーションの改善した一事例」として発表し、理事長賞を頂きました。図師町にあった頃の友愛荘は築47年を経過しており、設備的にかなり老朽化が進んでおりましたが、令和3年に移転改築ができたことで「センサー機能内蔵ベッド」「介護用リフト」「リフト機能付き入浴設備」「スマートフォン」「Wi-Fi環境」など様々な最新の設備が導入され、ハード面が充実しました。一方、施設が拡大したことで情報のやり取りに係る時間が多くなってしまう課題があ

り、情報共有をスピーディーで確実なものにすべく取り組んだ事例が今回の発表でした。近年「デジタル化」が一般的になりつつありますが、【ローデジタルトランスフォーメーション】つまり『デジタル化したことでどれだけサービスの質が向上できるか』が重要になってきます。今後はさらに発展させ、外部との情報共有やオンラインマニュアルなど、より職員が働きやすいと思える環境の整備をしていき、法人内他事業所でも可能な範囲で水平展開ができればと考えております。より良い事業所を目指して、今後も精進してまいります。



理事長を囲み受賞者のみなさん

優秀賞

『介護学習会の実践プロセスにみる、職員教育のシステム化による効果』

砧ホーム 春田 綾香
松崎 良平

砧ホームでは令和4年度より介護職員の学びたいとの声を具体化し、実際に現場で困っていることや不安に感じていることをテーマに挙げ介護学習会を実施しています。

今回は介護学習会を実施するまでの経緯について「介護学習会の実施プロセスにみる、職員教育のシステム化による効果」人材から人材へ！立ち上げがれ介護のスペシャリストを題として「アクティブ福祉東京、23さいかい」の場で、講演発表を行わせて頂きました。約2か月間、和やかな雰囲気の中で諸先輩方の指導の下、発表に取り組むことができた大きな学びと経験を得ることができました。

また、法人内の事例発表では「優秀賞」を頂くことができました

た。介護職員全体でこれまで取り組んできた介護学習会について評価を得ることができ、大きな自信に繋がりました。砧ホームには、学びを得る機会が豊富にあります。引き続き魅力的な職場環境作りに励み、より一層ご利用者様に素敵なサービスを提供できるよう日々精進して参りたいと思っております。

特別賞

『みんなで踊った！ソーシャルダンス音頭』

砧デイサービスセンター
齋藤 真文

この度は2018年に続いて、二回目の事例発表の機会を頂きました。発表のタイトルは「みんなで踊った！ソーシャルダンス音頭」で、その題名の通り2020年に砧デイサービスの企画の下に私が制作を担当した楽曲「ソーシャルダンス音頭」について、今日までの沿革をお話致しました。

(次ページへ続く)

思い起こせば2020年の夏、かつて無いほどに当施設のみならず法人全体の活動に大きな制限が課されておりました。そのような危機的な状況の中で、それでも近隣の方々がひととき日常の辛さを忘れて晴れやかな時間を過ごして頂けるように、そう考えた関係各位の熱意が、私一人の力を大きく超えてこの企画を広く開かれた形へと動かしていったのであらうと思います。

発表の準備を通じてその時の熱を帯びた空気を思い出し、改めて、二度と無いかもしれないような貴重な機会のきっかけを作れた事を嬉しく感じました。このプロジェクトを通じて触れる事になった法人全体の持つ様々な可能性を、微力ながら、地域社会に還元する一助に自分もなっていきたいです。



三大大行事について 地域連携委員会副委員長 小泉 貴宏

「盆踊り大会」「友愛ふれあい祭り」「合同運動会」世田谷施設で開催されるこの3つの行事は昔から友愛十字会の三大大行事と呼ばれてきました。

新型コロナウイルスの流行が始まった令和2年を境に、これらの行事はいずれも中止せざるを得ない状況になり、私たちは地域の皆さんや関係団体の方々となることができる貴重な機会を失うこととなりました。

しかし昨年、新型コロナウイルスの5類移行に伴い、令和元年以来4年振りに三大大行事を再開できる運びとなりました。

法人及び世田谷施設の事業が地域に理解され、施設の利用者や職員が地域住民との交流を深めるために開催してきた「盆踊り大会」は7月中旬に地域の多くの夏祭りの先陣を切るように開催し、毎年2000人を超える非常に大勢のお客様にご来場いただいております。



盆踊り大会

した。
久し振りの開催となった昨年、世の中の様々な制限は既に解除となったものの、感染予防の観点から人々の密集を避け、参加者に純粹に踊りを楽しんでもいただくことを目的として実施時間を2時間に短縮し、飲食を伴う模擬店等の出店を取りやめる形で開催いたしました。

を見て、ようやく行事が帰ってきたのだと実感いたしました。
「友愛ふれあい祭り」は、世田谷施設で実施している高齢者と障害者の支援活動の状況等を地域住民や利用者のご家族等にご覧いただき、相互理解と連携を深めることを目的に開催してきました。また、平成28年度からは地元三峯神社の例大祭における神輿渡御のルートにも組み入れられ大変な賑わいを見せてきました。



神輿渡御

盆踊り大会同様に久し振りの開催となったふれあい祭りはこれまでと少々趣の異なる形での実施となりました。中庭にステージを設け、地元の山野小学校の合唱、砧中学校の吹奏楽、そして、レイアロハフラスタジオの皆さんのフラダンス披露をメインとして、それに加えて今回初めての試みとなった地域住民の方々によるフリーマーケットの出店を行いました。

(次ページへ続く)



中庭ステージでの演奏

例年実施していた作品展示やゲームコーナー、模擬店出店等は無かったのですが、ご来場いただいた方々だけでなく、当法人施設の利用者の皆さんも十分に楽しんでいただけたものになったはずです。午後には、和響太鼓の皆さんの演奏と共に三峯神社のお神輿を迎え入れ、大変賑やかなうちにお祭りを終えることができました。



和響太鼓の皆さん

「身体に障害のある人もない人も、お年寄りも加わって一緒に体を動かし、秋の一日を楽しく過ごそう」をモットーに、法人の利用者、職員と多くの参加団体の交流と機能回復・維持を目的に世田谷区立総合運動場体育館で開催してきたのが合同運動会です。今回も総裁・瑤子女王殿下のご臨席を賜り、多くの団体の協力を得て行われましたが、こちらも4年振りということもあり、学習院を始めと



合同運動会

した各大学の参加者たちはいずれも合同運動会未経験者という中で準備でしたので、苦勞することも多かったと聞きました。プログラムも短縮し、勝敗よりも楽しく身体を動かすことに重きを置いた内容になりましたが、生き生きとした表情で競技に参加し、アトラクションを存分に楽しんでおられる参加者の姿が印象に残りました。

昨年再開となった三大行事は、全てが従前のそれからは時間や内容を変更したものとなり、いわばプレ大会的な意味合いになりました。短い開催時間やこれまでとは異なる内容に物足りなさを感じた人もいたかもしれません。しかし、まずは利用者・職員・関係者、そして地域住民が実際に顔を合わせて充実した時間を共有できたことを喜びたいと思います。

今年は、コロナ禍以前の内容に戻していくことが理想なのかもしれませんが、アフターコロナにおける行事開催の指標になり得るのではないかと考えています。

いずれにしても、地域の皆さんの想いを感じ、信頼あるつながりを持ち、多様性を認め合い、誰もが安心して暮らせる共生社会を創るための一助となる行事を今後も運営して参りたいと思います。

そのために、法人の地域連携委員会が中心となり、次年度以降の三大行事の在り方について検討を重ねていく所存であります。

宮様チャリティー

ボウリング大会

友愛園 園長 小関英利

第55回宮様チャリティーボウリング大会が開催されました。

(令和5年11月26日(日) 品川プリンスホテルにて) 昨年度に続き、障害の部は通常の半分の人数での実施となりましたが、当法人からは世田谷更生館と友愛園のご利用者22名が参加され、プロボウラーの皆様との交流においても参加人数が少ない分、通常よりも沢山アドバイスを受けながら、ボウリングを楽しむことができました。私たちがサポートしてくださったプロの皆様は今回が初参加という方ばかりでしたが、本当に明るく親切にご指導、サポートをしてくださり、ボウリングを通じて交流ができて本当にうれしく思いました。今回、友愛園のご利用者のレーンはガーターレーンをガイドしてガーターが出にくい設定にいただきましたが、その

お蔭でピンを沢山倒すことができて、大変盛り上がり、ご利用者の笑顔もたくさんあり大満足でした。



第55回宮様チャリティーボウリング大会

板橋区障がい者スポーツ大会

東京聴覚障害者支援センター

高井 純

10月28日(土) 朝。前日から雨を引きずったスカッとしな

天候の中、4年ぶりに板橋区障がい者スポーツ大会が開催され、聴覚障害者支援センター他板橋区内の福祉園、作業所、デイサービス事業所など全18団体、180人のボランティアを含め参加者総数1222人が参加しました。

板橋区の障がい者スポーツ大会は今回が第40回、当事業所を長く利用されている人の中には、参加を楽しみにしている人も多く、80〜40歳代の利用者10人が参加を希望、その中には長距離の歩行が困難な人も含まれているため、4年ぶりの思いに込めるべく看護師同行により万全を期して参加してきました。

参加者が一番楽しみにしているのが伝統の「パン食い競争」です。50メートルのコース中盤にぶら下がる、あんぱん、ジャムパン、クリームパン獲得を目指して10人程度が一斉に走ります(パンは全員分用意されています)。この大会は「玉入れ」などの一部を除き、競い合う競技は無いのですが、この競技ばかりはお目当てのパンを目指して皆がライバルとなります。

昼休憩後、全員参加のレクリエーションダンスが行われ、北海道日本ハムファイターズで一躍有名となった「きつねダンス」を壇

上に立つインストラクターを真似て踊りました。本家の愛らしい振り付けとけとはかけ離れたダンスになっていましたが、ダンスを楽しむ気持ちと笑顔だけは本家に負けていなかったと思います。開会からしばらくは小雨交じりでしたが、大会の盛り上がりとともに天候は回復し、午後はとても過ごしやすくスポーツの秋を満喫できた一日でした。



第40回板橋区障がい者スポーツ大会

施設開放へ向けた取り組みについて

友愛荘 主任 山口公司

新型コロナウイルスがまん延してから約3年、高齢者施設は多くの事業所が面会、外出の制限など外部との接触を可能な限り避けてきました。「感染対策」と「生活の質の向上」という難しい2つのテーマを考えながら、どう運営していくのか利用者にどのようなケアを展開していけばいいのか苦悩の日々が続いていましたが、2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことを足掛かりに、友愛荘では施設の開放へ向けて動き出しました。

目標として、『地域の方への交流の場として施設を使っていたこと』また『ご家族が自由に面会可能な環境の整備』を掲げ、プロジェクトチームを発足し、順次検討していきました。

管理や必要物品、懸念事項などを整理し、7月に中庭及び1階カフェスペースの地域の方々への開放、8月より地域交流スペース（予約制）の開放と1階居住スペースでの面会開始、9月1日より他全居住スペースでの面会を開始することができました。

中庭及びカフェスペースの開放に関しては地域の方の利用はもちろん、ご利用者がご家族とカフェスペースでくつろいでいただく等、思い思いの時間を過ごしていただくことができます。

ご家族の面会については、これまで窓越しやオンラインでしか会えなかった家族と会うことができ、嬉しそうなご利用者とご家族をみて、この『つながり』を大切にしなければならぬと職員一同改めて感じております。

施設の開放はまだ始まったばかりです。これからも地域やご家族、利用されるすべての方に愛される施設を目指し、関わる全ての皆さんと共に歩みを進めていきたい所存です。

中長期計画

法人本部事務局企画部
部長 宮崎 浩

法人の中長期計画は、令和5年6月に「当法人における現状認識」と「今後の事業の基本方針」を9頁の計画書として整理しました。今後は、地域の福祉ニーズとして『必要性』が十分に認められ、広範な福祉分野で築いてきた『専門性』が発揮でき、持続可能な福祉サービスとして財政面からも継続・拡大が可能な『確実性』があること、この3要件（必要性・専門性・確実性）を満たす事業を推進します。計画の重点は、法人本部事務局と8事業所を合築した建物で運営している「世田谷施設」です。なお、この計画は令和4年度から令和9年度までの6年間を長期、令和6年度までの3年間を中期と位置付けています。計画の概要は以下の通りです。

法人本部は、各施設・事業所等と連携を強化し魅力ある福祉の職

場を構築します。世田谷施設既存事業の方向性では、「拡大・充実」が3事業、「継続」が7事業、「縮小しつつも当面継続」は2事業、「時期未定の廃止」は2事業です。新たに取り組む事業として、①医療的ケア児・者の受入れ、②障害者のグループホーム及び障害者用住宅の見守り事業等、③相談支援事業所の運営、地域包括支援センターの複数受託、④在宅サービス、訪問看護や訪問介護の事業開始や訪問診療事業の開設、⑤砧地区における地域福祉の推進等、様々な検討を継続します。一方で、旧世田谷更生館の取壊しや、本館・別館の大規模修繕等、建物の老朽化対応を急務としました。さらに、「急速な情報のデジタル化」も大きな課題です。また、改めて「人材の確保・育成・定着」の連動を図ります。各事業所が横のつながりをより強固にして、この地域に貢献する体制を具体化します。

分身ロボットの活用

砧ホーム 副主任

小谷野 祐樹

東京都福祉保健局（現・福祉局）高齢者施策推進部施設支援課による令和5年度高齢者施設における分身ロボット活用支援事業に選定され、オリイ研究所にて開発されたOriHimeの実証を勧めるに至りました。OriHimeは分身ロボットと表現され、もともとは重い障害や難病を持つ人が自宅や病院にいながら働くことを目的として作成された、AIではない操縦するためのロボットになります。すでにロボットcaféとして活躍している分身ロボットOriHimeですが、今回の事業では高齢者施設において、施設の外から遠隔操作で入所者とのコミュニケーション等を行い、介護業務のタスクシェアの実現可能性を探る効果検証を行っています。

利用者目線からすると職員が必ずしもすぐそばで会話に対応することが出来ない状況は多々あると感じるケースなのではないかと思われすが、OriHimeを活用することで会話相手が生まれるため欲

求が満たされることとなります。昨今ではアセスメントを行う上で「ICF（国際生活機能分類）」を取り入れています。これにより「生活機能」「背景因子」をとらえる

ことで健康状態の確な理解に近づけています。この「生活機能」の中には「心身機能・身体機能」「活動」「参加」と3つの要素がありま



すが、地域等の社会的な活動にあたる「参加」が少なくなりがちな入所利用者にとつて外部の人との交流が出来るツールの一つとして貴重な機会を持つことが出来ていると感じています。

では、中々ロボットに話しかけるといふ状況が慣れない環境であり、認識していただくことから検討し、OriHimeに服を着てもらい存在感をアピールしました。「かわい

いいね」「女の子なの？」と声を頂けるようになったことから口

ボットに対して親しみを持ってもらえるようになったと思います。また、ロボットからの音声では聞こえづらい様子も見られたためスピーカーを設置し、場合によってはマイクも変更して利用者の目線に沿った使用方法を検討しながら検証を続けています。特に音声に関しては、Zoomでの面会から感じていましたが、高齢者側からすると、PCなどから出る音は聞き取り難いことが予想されていたため、聞こえやすいスピーカーを使用していただいています。声が聞こえなくなってしまうと興味が薄れてしまうため、まずは興味を持つてもらえるところから始めることとしました。その他、細かいところでは光った目が眩しいとの意見もあり透明のテープを張り目の部分を黒く塗ることで光を和らげたりもしました。

今後はボランティア側にも傾聴に関して簡単なマニュアルを作成し取り掛かりやすくすることも必要と感じるため利用者側、ボランティア側の双方にストレスがかけられず快適に操作していただけるように工夫していきたいと考えています。

子育てと仕事の 両立について

友愛十字会男女共同参画委員会

当委員会では、女性も男性も働きやすい、子育てや介護などと両立できる職場環境を創っていかうと活動しています。

今回は、子育てとの両立をされています、お二人をご紹介します。

砧あんしんすこやかセンター

中村 あゆみ

約1年間、産休育休を得て、砧あんすこに復職しました。現在は1時間の短勤務で8時半から16時半まで勤務しています。子どもの体調不良などで急遽、仕事を休ませていただいたり、遅刻や早退するなどご迷惑をおかけすることも多いですが、職場の皆様のご理解もあり、育児と仕事の両立ができています。



ご利用者にも急遽予定変更させていただきますことありますが、皆さま

「息子さん体調大丈夫？」など心配していただいたり、子育てをしながら仕事をすることに応援していただく言葉を頂きます。

学生のころから社会福祉士として働きたいと思っていたため、砧あんすこに異動して1年半程で産休を取るときは、また砧あんすこで復職できるのか不安でした。子育て中でも自分の今後のキャリアを考えて自分の希望する仕事ができること、その環境を作ってくれている職場の皆さんには本当に感謝しています。

今のこの経験を育児、介護の両立できる職場環境づくりに還元できるように自分自身にできることを頑張っていきたいと思っています。

港区立児童発達支援センター

石川 亜紀

私は、前職を9年間務めた後に、児童発達支援センター立ち上げの年に入職しました。すでに息子が1人おりましたので、退勤時刻とともに迎えに向けて走って帰る毎日でした。

入職1年目の途中で娘の妊娠がわかったときには暖かく受け入れていただき、2年目の夏に産休に入りました。2人目だったので兄と同じ保育園への入園と次年度の4月の復帰を悩まずに決めることができました。



復帰しましたが、0歳児の娘は体調を崩すことが多く、毎月職場に休みの連絡をし、担当するご家族にスケジュールの変更をお願いしていました。1週間体調を崩すことも度々あり、病児保育を利用することで娘にも申し訳ない気持ちになていました。

徐々に、仕事と家庭の両立について悩むことが増えましたが、私の心情を察するかのようになり、前上司が「やめることを考えてはだめよ」と声をかけてくださりました。そのときに話をしたことが、今も私の支えになっています。

相変わらず兄妹2人が時間差で体調を崩すことがあり、職場の方々や担当するご家族の皆さまの優しさに助けられています。

現在は、朝30分の育児短縮時間勤務を活用していますので、産休前と比べて給与が下がることを受け入れ



ながら、副主任としての任命を受け働いています。任命される際には、センター長より「働くお母さん」が活躍できる職場にしていきたいというありがたいお言葉を頂戴しました。

私一人では容易ではありませんが、家族や上司・同僚に助けてもらいながら、好きな仕事を続けられていることに感謝しています。今は、人生の選択肢が多くありますが、職場内で育児と仕事の両立を選択したいと思ったときに、不安を減らして働いていけるように、私自身が仕事と育児を両立し、気持ちよく働けることを実現していきたいと思っています。

善意のかずかず

次の方々から利用者及び施設に対しましてご奉仕等を賜り、また、善意の金品のご寄贈を頂きましたこと
に対して、心より御礼申し上げます。
(令和5年7月1日〜令和5年11月30日)

奉仕活動

○世田谷更生館

秋山 一代
伊藤 幸子

○友愛園

慶応義塾大学ライチウス会

○友愛デイサービスセンター

山川 敏江

○砧ホーム

天野 勝宏

甲田 英子

土田 ケサヨ

宮幸 朱美

渡辺 美樹

まほの会

○砧デイサービスセンター

石井 公子

鎌田 セツ

川口 栄子

寿乃田 雅子

田村 正子

森崎 千鶴

かわせみサウンズ

和響太鼓

○砧あんしん すこやかセンター

鎌田 セツ

小山 秀樹

菅田 悦子

西多 法子

山田 哲夫

○友愛荘

中島 公明

松永 誠子

寿々の会

○港区立障害保健福祉センター

一山 洋子

伊藤 恵一

岩崎 智子

岡田 藤子

小林 和子

定方 義和

武田 敦子

竹之内 公恵

泥谷 隆史

宮田 眞

米田 ひさの

プルデンシャル生命㈱

港区社会福祉協議会

麦の会

寄付金

○本部

相原トミ子

秋山 隆子

浅山 恵子

足立 義詮

石井 盛利

石井 洋一

遠藤 修

大島 弘之

木村 忠敬

長島日出男

松永 瑞静

松原 利枝

㈱新井電気工業所

㈱大蔵自動車商会

㈱大蔵東部町会

㈱カインドサービス

関東ボウリング場協会

砧町町会

砧まちづくりセンター

コルカタ

世田谷砧郵便局

世田谷区I K K福祉協会

世田谷区障害福祉部障害者地域生活課

世田谷区身体障害者福祉協会

杉田春義

世田谷区日赤奉仕団砧分団

世田谷区立砧工房

祖師谷商店街振興組合

日本プロボウリング場協会男子選手会

ネオ・ハルト㈱
法人格砧町自治会

㈱矢藤園

山野小学校 P T A

悠遊踊ろう会

レイアロハフラスタジオ

○港区立障害保健福祉センター

芝金杉町会

寄付物品

○本部

藤原 禎一

㈱カインドサービス

砧町町会

さわやか信用金庫 世田谷支店

世田谷区社会福祉協議会

祖師谷南商店街振興組合

リコーブラックラムズ東京

○友愛デイサービスセンター

太田 栄

早坂 栄

Y・O

(敬称略)

職員異動

(令和5年7月1日)
(令和5年11月30日)

○就任

友愛ホーム

園長

佐藤 秀崇

配置換え

法人本部事務局長

酒井 健治

併任

法人本部事務局

佐藤 秀崇

併任解除

法人本部事務局

酒井 健治

総務部長

酒井 健治

編集後記

読者の皆様のご健康とご多幸を心から祈りいたします。

本年も本誌にて友愛十字会の魅力を発信してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

次号もお楽しみに。

《第59号は、令和6年7月31日発行予定です。》

ゆうあい編集委員会 副委員長

友愛園 施設長 小関 英利



ゆうあい 第五十八号

令和六年一月一日

発行 社会福祉法人 友愛十字会

発行人 酒井 健治

所在地 東京都世田谷区

砧三丁目九番十一号

電話(〇三)三四一六・三二六四

<http://www.yuai.or.jp>

表紙写真：高橋 秀志